

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月12日

【四半期会計期間】 第113期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

【会社名】 株式会社愛媛銀行

【英訳名】 The Ehime Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 頭取 本 田 元 広

【本店の所在の場所】 愛媛県松山市勝山町2丁目1番地

【電話番号】 松山(089)933局1111番(大代表)

【事務連絡者氏名】 企画広報部長 三 宅 和 彦

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区岩本町3丁目2番4号
株式会社愛媛銀行 東京事務所

【電話番号】 東京(03)3861局8151番

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 西 川 義 教

【縦覧に供する場所】 株式会社愛媛銀行 高知支店

(高知県高知市はりまや町1丁目4番5号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 高知支店は、金融商品取引法の規定による備付場所ではありませんが、
投資者の便宜のため備えるものであります。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成27年度第1四 半期連結累計期間	平成28年度第1四 半期連結累計期間	平成27年度
		(自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 6月30日)	(自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 6月30日)	(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
経常収益	百万円	10,866	10,558	43,478
経常利益	百万円	2,662	2,170	9,760
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	1,688	1,475	
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円			5,814
四半期包括利益	百万円	2,230	5,030	
包括利益	百万円			6,585
純資産額	百万円	106,049	114,009	109,515
総資産額	百万円	2,227,132	2,276,108	2,461,481
1株当たり四半期純利益 金額	円	9.51	8.31	
1株当たり当期純利益 金額	円			32.76
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 金額	円	8.01	7.00	
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額	円			27.60
自己資本比率	%	4.72	4.96	4.41

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、主として税抜方式によっております。
2 第1四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更及び新たに発生した事業等のリスクはありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当行グループ(当行及び連結子会社)が判断したものであります。

業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、回復基調で推移するなか、株価や為替の大幅な変動により先行きについては、不透明な状況が続いております。

当行が営業基盤とする愛媛県内の経済情勢におきましては、個人消費や企業の生産活動は、緩やかに持ち直しの動きが続きました。

このような状況にあって当行グループは、「創業100年、“殻を破る”未来への挑戦」をテーマに、第15次中期経営計画の各種取組に挑戦を続けています。

経常収益は105億58百万円と前年同四半期比3億7百万円の減少、経常利益は21億70百万円と前年同四半期比4億91百万円減少となり、親会社に帰属する四半期純利益は前年同四半期比2億13百万円減少して14億75百万円となりました。

また、財務面において総資産は2兆2,761億円(前連結会計年度末比1,853億円減少)、純資産1,140億円(前連結会計年度末比44億円増加)となりました。

預金等残高(譲渡性預金含む)は2兆1,000億円と前連結会計年度末から1,938億円減少しましたが、個人預金は前連結会計年度末から141億円増加し、1兆2,736億円となりました。貸出金残高は、1兆4,973億円と前連結会計年度末比24億円増加しました。

セグメント情報につきましては、次のとおりであります。なお、記載の金額は内部取引相殺前の金額であり、課税取引については消費税及び地方消費税を含んでおりません。

銀行業の経常収益は、運用利回りの低下により前年同四半期比3億19百万円減少して96億14百万円となり、セグメント利益は前年同四半期比5億15百万円減少し19億72百万円となりました。

リース業、その他につきましては前年同四半期とほぼ同様の結果となりました。

今後も引き続き当行の目指すべき姿である、「最初に相談される銀行」という愛媛銀行ブランドの確立を目指してまいります。

国内・国際業務部門別収支

(業績説明)

当第1四半期連結累計期間においては、運用利回りの低下により、資金運用収支合計は前第1四半期連結累計期間比49百万円減少し、76億31百万円となりました。役務取引等収益が、前第1四半期連結累計期間比1億58百万円減少するとともに、個人ローンの増加に伴う役務取引等費用の増加により、役務取引等収支合計は前第1四半期連結累計期間比2億7百万円減少し、2億21百万円となりました。その他業務収支合計は、国債等債券売却益の増加に伴い、前第1四半期連結累計期間比1億68百万円増加し、11億22百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	6,813	867	-	7,681
	当第1四半期連結累計期間	6,646	984	-	7,631
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	7,448	1,026	102	8,372
	当第1四半期連結累計期間	7,124	1,264	80	8,309
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	635	158	102	691
	当第1四半期連結累計期間	478	279	80	678
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	25	12	-	13
	当第1四半期連結累計期間	225	4	-	221
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,045	18	-	1,063
	当第1四半期連結累計期間	886	18	-	904
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	1,071	6	-	1,077
	当第1四半期連結累計期間	1,112	13	-	1,125
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	994	40	-	953
	当第1四半期連結累計期間	1,192	70	-	1,122
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	1,002	5	-	1,008
	当第1四半期連結累計期間	1,197	-	-	1,197
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	7	46	-	54
	当第1四半期連結累計期間	5	70	-	75

(注) 1 「国内業務部門」は、当行及び子会社の円建取引、「国際業務部門」は当行及び子会社の外貨建取引であります。

ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2 「相殺消去額」は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

(業績説明)

役務取引等収益合計は、証券関連業務の役務収益の減少により、前第1四半期連結累計期間比1億58百万円減少し9億4百万円、役務取引等費用は前第1四半期連結累計期間比48百万円増加して11億25百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,045	18	-	1,063
	当第1四半期連結累計期間	886	18	-	904
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	255	-	-	255
	当第1四半期連結累計期間	285	-	-	285
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	260	18	-	278
	当第1四半期連結累計期間	263	17	-	281
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	266	-	-	266
	当第1四半期連結累計期間	90	-	-	90
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	148	-	-	148
	当第1四半期連結累計期間	140	-	-	140
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	34	-	-	34
	当第1四半期連結累計期間	35	-	-	35
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	11	0	-	11
	当第1四半期連結累計期間	3	0	-	4
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	1,071	6	-	1,077
	当第1四半期連結累計期間	1,112	13	-	1,125
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	51	6	-	58
	当第1四半期連結累計期間	62	2	-	65

(注) 「国内業務部門」とは当行及び子会社の円建取引、「国際業務部門」とは当行及び子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	1,765,344	100,038	-	1,865,382
	当第1四半期連結会計期間	1,792,805	76,178	-	1,868,983
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	698,583	-	-	698,583
	当第1四半期連結会計期間	754,538	-	-	754,538
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	1,057,762	-	-	1,057,762
	当第1四半期連結会計期間	1,031,280	-	-	1,031,280
うちその他	前第1四半期連結会計期間	8,998	100,038	-	109,037
	当第1四半期連結会計期間	6,986	76,178	-	83,164
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	174,591	-	-	174,591
	当第1四半期連結会計期間	231,074	-	-	231,074
総合計	前第1四半期連結会計期間	1,939,935	100,038	-	2,039,974
	当第1四半期連結会計期間	2,023,879	76,178	-	2,100,058

(注) 1 「国内業務部門」とは当行及び子会社の円建取引、「国際業務部門」とは当行及び子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,456,515	100.00	1,497,335	100.00
製造業	116,282	7.98	115,439	7.71
農業、林業	3,509	0.24	3,369	0.22
漁業	4,684	0.32	4,786	0.32
鉱業、採石業、砂利採取業	158	0.01	141	0.01
建設業	40,425	2.78	41,229	2.75
電気・ガス・熱供給・水道業	3,153	0.22	5,537	0.37
情報通信業	4,434	0.30	5,255	0.35
運輸業、郵便業	148,722	10.21	140,466	9.38
卸売業、小売業	97,248	6.68	95,905	6.41
金融業、保険業	50,063	3.44	70,537	4.71
不動産業、物品賃貸業	117,557	8.07	128,455	8.58
各種サービス業	151,934	10.43	160,525	10.72
地方公共団体	136,578	9.38	154,633	10.33
その他	581,762	39.94	571,050	38.14
海外及び特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	1,456,515		1,497,335	

(注) 1 「国内」とは、当行及び子会社で特別国際金融取引勘定分を除いたものであります。

2 当行には海外店及び海外に子会社を有する子会社はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	500,000,000
計	500,000,000

(注) 平成28年6月29日開催の第112期定時株主総会において、当行普通株式について5株を1株に併合する旨、及び株

式併合の効力発生日(平成28年10月1日)をもって発行可能株式総数を500,000,000株から100,000,000株に変更する旨が承認可決されております。

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	178,121,459	同左	東京証券取引所 (市場第1部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式。 単元株式数は、1,000株
計	178,121,459	同左		

(注) 1 提出日現在発行数には、平成28年8月1日から報告書を提出する日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2 平成28年6月29日開催の第112期定時株主総会において、株式併合の効力発生日(平成28年10月1日)をもって単元株式数を1,000株から100株に変更する旨が承認可決されております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日		178,121		19,114		13,249

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、平成28年6月30日現在の株主名簿が作成されていないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載を行っています。

【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 663,000		権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 176,306,000	176,306	同上
単元未満株式	普通株式 1,152,459		同上
発行済株式総数	178,121,459		
総株主の議決権		176,306	

(注)1 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1千株（議決権1個）含まれております。また、「議決権の数(個)」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が1個含まれております。

2 単元未満株式には当行所有の自己株式736株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株愛媛銀行	愛媛県松山市勝山町2丁目 1番地	663,000		663,000	0.37
計		663,000		663,000	0.37

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
現金預け金	239,067	174,226
コールローン及び買入手形	120,000	3,087
買入金銭債権	59,399	60,908
商品有価証券	224	289
有価証券	499,751	486,485
貸出金	1 1,494,933	1 1,497,335
外国為替	9,449	8,130
リース債権及びリース投資資産	6,978	6,807
その他資産	10,995	18,278
有形固定資産	31,690	31,768
無形固定資産	1,224	1,149
繰延税金資産	507	417
支払承諾見返	5,232	5,258
貸倒引当金	17,972	18,034
資産の部合計	2,461,481	2,276,108
負債の部		
預金	1,900,602	1,868,983
譲渡性預金	393,288	231,074
コールマネー及び売渡手形	-	3,087
借入金	25,437	24,320
外国為替	1	8
新株予約権付社債	7,928	7,928
その他負債	12,143	12,664
役員賞与引当金	58	-
退職給付に係る負債	1,015	1,011
役員退職慰労引当金	504	533
利息返還損失引当金	52	52
睡眠預金払戻損失引当金	191	191
繰延税金負債	1,434	2,919
再評価に係る繰延税金負債	4,076	4,065
支払承諾	5,232	5,258
負債の部合計	2,351,966	2,162,098
純資産の部		
資本金	19,114	19,114
資本剰余金	13,249	13,249
利益剰余金	54,145	55,114
自己株式	236	236
株主資本合計	86,273	87,242
その他有価証券評価差額金	14,580	18,086
土地再評価差額金	7,857	7,831
退職給付に係る調整累計額	51	39
その他の包括利益累計額合計	22,386	25,879
非支配株主持分	855	888
純資産の部合計	109,515	114,009
負債及び純資産の部合計	2,461,481	2,276,108

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
経常収益	10,866	10,558
資金運用収益	8,372	8,309
(うち貸出金利息)	6,469	6,224
(うち有価証券利息配当金)	1,207	1,463
役務取引等収益	1,063	904
その他業務収益	1,008	1,197
その他経常収益	1 421	1 147
経常費用	8,204	8,388
資金調達費用	691	678
(うち預金利息)	516	475
役務取引等費用	1,077	1,125
その他業務費用	54	75
営業経費	6,001	6,173
その他経常費用	2 379	2 334
経常利益	2,662	2,170
特別利益	11	-
固定資産処分益	11	-
特別損失	3	4
固定資産処分損	3	4
税金等調整前四半期純利益	2,670	2,166
法人税、住民税及び事業税	1,041	703
法人税等調整額	78	29
法人税等合計	963	673
四半期純利益	1,706	1,492
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,688	1,475
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	17
その他の包括利益	523	3,537
その他有価証券評価差額金	461	3,525
退職給付に係る調整額	62	12
四半期包括利益	2,230	5,030
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,209	4,994
非支配株主に係る四半期包括利益	20	35

【注記事項】

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

当第1四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
破綻先債権額	673百万円	702百万円
延滞債権額	33,827百万円	35,764百万円
3ヵ月以上延滞債権額	117百万円	7百万円
貸出条件緩和債権額	9,238百万円	8,723百万円
合計額	43,857百万円	45,197百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
償却債権取立益	7百万円	0百万円
株式等売却益	298百万円	72百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
貸出金償却	91百万円	29百万円
貸倒引当金繰入額	230百万円	172百万円
株式等売却損	0百万円	0百万円
株式等償却	2百万円	76百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	187百万円	235百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	532	3.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	532	3.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	9,933	755	10,688	177	10,866	-	10,866
セグメント間の内部経常収益	100	52	153	369	522	522	-
計	10,034	807	10,842	546	11,389	522	10,866
セグメント利益	2,488	34	2,522	145	2,668	6	2,662

(注)1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、コンピュータシステム管理・運営業務、クレジットカード業務及び人材派遣業務等を含んでおります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っており、また、セグメント利益又は損失()の調整額6百万円は、セグメント間の取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	9,614	758	10,372	186	10,558	-	10,558
セグメント間の内部経常収益	104	57	161	382	544	544	-
計	9,718	815	10,534	568	11,103	544	10,558
セグメント利益	1,972	17	1,989	190	2,180	9	2,170

(注)1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、コンピュータシステム管理・運営業務、クレジットカード業務及び人材派遣業務等を含んでおります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っており、また、セグメント利益又は損失()の調整額9百万円は、セグメント間の取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められるものではありません。

(有価証券関係)

- 1 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。
- 2 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか「現金預け金」中の譲渡性預け金を含めて記載しております。

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
短期社債			
社債	4,987	4,981	5
その他			
合計	4,987	4,981	5

(注) 時価は、当連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
短期社債			
社債	4,775	4,787	12
その他			
合計	4,775	4,787	12

(注) 時価は、当第1四半期連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	19,732	34,248	14,516
債券	247,047	251,007	3,960
国債	112,262	111,950	311
地方債	67,649	69,200	1,550
短期社債			
社債	67,134	69,856	2,721
その他	203,378	205,320	1,941
合計	470,157	490,576	20,418

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	19,738	37,011	17,273
債券	224,539	229,733	5,194
国債	91,542	91,887	344
地方債	69,343	71,128	1,784
短期社債			
社債	63,652	66,718	3,065
その他	207,680	210,744	3,063
合計	451,958	477,489	25,531

(注) その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第1四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当第1四半期連結累計期間における減損処理額69百万円であります。前連結会計年度における減損処理額はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に対して時価が50%以上下落した場合、また、時価の下落が30%以上50%未満の場合は、過去の時価の水準等を勘案し、「回復する見込みがある」と認められない場合であります。

(金銭の信託関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものではありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	円	9.51	8.31
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	1,688	1,475
普通株主に帰属しない金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	1,688	1,475
普通株式の期中平均株式数	千株	177,446	177,456
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円	8.01	7.00
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円	1	2
うち支払利息(税額相当額控除後)	百万円	1	2
普通株式増加数	千株	33,478	33,451
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要			

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月12日

株式会社 愛媛銀行
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 信彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堀川 紀之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社愛媛銀行の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社愛媛銀行及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。